



気仙沼市副市長が訪問されました

1月18日、東日本大震災で、市が支援活動を行った気仙沼市の副市長を迎えて、現在の復興状況を説明を受けました。

被災地としての立場での意見交換も行い、今後も互いに協力し合うことを誓いました。

## 市長からのメッセージ 【こちら市長執務室】

丹波市長 辻 重五郎

は、丹波竜（タンバティニアス・アミキティアエ）の発掘地（山南町上滝の川床）から上流へわずか5mほどのところです。埋まっていた地層は白亜紀前期の篠山層群（1億1千万年前の地層）で、これも丹波竜と同じです。以前にカナダから来日された古生物学者のカリーア教授と北海道大学の小林准教授は、丹波竜の化石発見地を含めその周辺について「丹波は化石の宝庫で、まだまだ発見される可能性がある」と断言されました。

去る1月8日、丹波県民局で卵化石発見の記者会見が行われ、獣脚類恐竜もしくは鳥類と考えられる非常に小型の卵化石・卵殻化石が密集した状態で複数発見されたと発表されました。この発見は、国内ではほかに例がなく、世界でも7例目の極めてまれなもので、連日テレビ、新聞などで大きく報道されました。さらに、卵化石が恐竜の卵と断定された場合、世界最小クラスの称号も得られる、とつもない大発見です。

### 【テーマ】 卵化石発見で丹波市をPR！

この世界的な発見は地元自治協議会をはじめ人と自然の博物館など多くの熱意によって実りました。また、今後この卵化石が詳しく調査され、恐竜の生態や繁殖状況が明らかになってくるものと思われます。1億1千万年前の時代から、丹波市の自然は生物が生れ育つのに適したすばらしい自然環境であり、空気・水・食物の豊富なところであつたことも立証できます。のではないかと考えております。

話題を呼びましたが、その予想を裏付ける発見となりました。卵化石が発見された試掘調査は、上久下地域自治協議会の有志約10名が中心となり、人と自然の博物館の協力のもと行われました。上久下地域自治協議会では、「たくさんの人の関心を集めること」をやがて新たな発掘・発見が必要と、平成26年8月から試掘調査を開始し、3回目の試掘調査では悲願の新発見に至りました。卵の化石が見つかった時にはみんなで「やった！」と歓声を上げて喜ばれました。



©小田隆

## News ① 母子保健事業の推進に功績

### 平成27年健やか親子21全国大会 厚生労働大臣表彰を受賞

市愛育会、県愛育連合会長である臼井里佳さんが、『平成27年度健やか親子21全国大会』（神奈川県）で、母子保健事業の推進に功績があったとして、厚生労働大臣表彰を受賞しました。

臼井さんは、1986年から愛育班員として赤ちゃんから高齢者まで幅広い年代への声かけ活動などを行い、健康ですみよいまちづくりに貢献。その長きにわたる活動が評価されました。

現在も市愛育会会長として市の健康づくりに打ちこまれる臼井さんは「表彰は班員の皆さんのがんばりのおかげです。これからも地道に活動を続けながら、地域のつながりを強め、健康意識を高めていきたい。また、快く愛育班活動に送り出してくれた家族にも感謝したい」と話しました。



市役所で辻市長に受賞報告

※愛育班とは、だれもが健康で住みよい「まちづくり」をめざして活動する組織です。声かけ運動や家庭への訪問を中心に活動しています。

問 健康課（氷上保健センター内）☎ 82-4567

## News ② 第63回兵庫県広報コンクール

### 「広報たんば」が「企画賞」を受賞



受賞作品／広報たんば「9月号」  
災害から1年を振り返り、復興へのあゆみを特集。

兵庫県が主催する「第63回兵庫県広報コンクール」で「広報たんば平成27年9月号(131号)」が企画賞を受賞しました。

豪雨災害から1年を振りかえる特集について「年表・写真・図を使って親しみやすい紙面となっている」と評価を受けました。

今回の受賞は、取材に協力いただいた方々と、日々から広報たんばの発行をご理解いただいている市民のみなさんのおかげです。今後もより多くのみなさんに読んでいただける広報紙の制作に努めます。

## News ③ より多くの命を救うために 救急救命士の処置項目拡大

2月1日から、救急救命士の処置項目2件の追加運用が開始され、心肺停止前の患者に新たな医療行為ができるようになりました。

追加されたのは、心肺停止前の重度傷病者に対する静脈路確保や、血糖値測定と低血糖患者に対するブドウ糖溶液などの点滴。これまででは、傷病者が心肺停止状態の場合のみ、薬剤による処置ができると定められていました。

今後、心肺停止前の適切な処置により、傷病人の症状の緩和や救命率上昇が期待されます。



追加された処置項目の実演のようす